領域「社会」の紹介

授業を展開するにあたりマニュアルやハウツーに依存しがちですが、教師には、目の前にいる児童生徒は個性的な存在であり、個別的で具体的な問題解決が必要なのだという知的な姿勢が求められます。社会系教育を担う教師としての知的な姿勢は、教師として自らがどのような社会認識を持っているか、児童生徒が社会の中でどのような生活現実を背負って学校に来ているのかなどを、研ぎ澄ませることで形成されます。

だからこそ、大学生の時には、情報化・価値の多様化・国際化が進む現代社会の中で求められる社会認識とはいかなるものか、そうした社会の中で児童生徒はどのような生活実態を持っているのかなど、生涯を通じて習得すべき視点の基盤づくりが必要です。つまり、昨今、至る所で指摘されている「児童生徒によりよい社会環境を創造していく探究力を習得させる授業づくり」や「児童・生徒の社会認識を育成・深化させて積極的な社会参加を促す授業づくり」を、皆さんが将来、学校で実行していくには、社会科学・人文科学・環境科学の基礎的・基本的な素養を習得することが不可欠なのです。

領域「社会」で学ぶことの意義は、主観的なあるいはステレオタイプ的な教育観・社会科授業観・発達観等から脱却するために、人間と社会を認識し理解する学問を身に付けるところにあります。そうすることが、ハウツーやマニュアルでは対応しきれない「現実の様々な教育的な課題」にねばり強く対応していくことへ直接的に繋がることになります。

１．担当教員の専門分野と研究室は以下のとおりです。

池口　明子（人文地理・地誌学）　：文化地理学、外国地誌［3研-809］
小沢　奈々（法学）　：法学、近代日本法史、比較法史［3研-812］
片岡　浩二（経済学）　：理論経済学・社会経済学［3研-808］
加藤　千香子（歴史学・ジェンダー論）：日本近現代史、ジェンダー／マイノリティ論［3研-807］
金馬　国晴（生活科･総合学習）　：カリキュラム論、戦時下・戦後日本史［2研-203］
重松　克也（社会科教育）　：社会科評価研究・社会科授業研究［3研-716］
下城　一（倫理学）　：哲学・倫理学研究［3研-816］
鈴木　允（社会科教育・人文地理）：地理教育、歴史地理学、人口地理学［3研-712］
白取　道博（教育学）　：近代日本教育史／青少年動員政策史／戦争文化論［3研-612］
棚橋　信明（西洋史）　：ドイツ近代史（都市と市民層）の研究［3研-810］
多和田雅保（日本史）　：日本近世史、地域社会論［3研-801］

２．各ゼミの演習内容と卒論指導の中心的な内容は以下のとおりです。

池口　明子（人文地理・地誌学）

（演習）人文地理学の基礎的な概念を学び、地域の諸問題を考える。
（卒論指導）日本・熱帯地域における地域社会の変化について野外調査・研究をおこなう。

小沢　奈々（法学）

（演習）　具体的な社会問題を手がかりとして、日本の法制度の現状を体系的に把握し、その基本的な課題と問題点について探求する。
（卒論指導）現代の様々な法学上の問題について、各人の関心に則してテーマを選定する。

片岡　浩二（経済学）

（演習）経済に関する基礎的な知識を習得し、現実社会の諸問題について考える。
（卒論指導）社会科学的な視角に基づき経済的な問題について取り組む。

加藤　千香子（歴史学、ジェンダー論）【2022年度退職予定】

（演習及び卒論指導）日本を主とする近現代史、ジェンダー・マイノリティに関する問題を考える。

金馬　国晴（生活科･総合学習）

（演習及び卒論指導）戦後に各地の学校・地域が作成したカリキュラムの冊子類、元教師へのインタビューの記録などを活用して、生活科・総合学習、カリキュラムの全体構成を問い直す。他に、総合学習の諸テーマや方法、ワークショップほか参画型授業、実践・活動の質的な研究法（インタビュー、フィールドワーク、ケース研究‥‥）、戦時下・戦後の日本人の生活や思想・社会科学など。

重松　克也（社会科教育）

（演習）今日の教育政策の動向に対する分析を通して、いわゆる学校知を相対化した上で社会科教育が自明視している諸点に関する知見を検討する。
（卒論指導）社会科は公民的資質形成に対して何ができて何ができないか。そのことを学びの視点から考察する立場から、広く社会科教育全般やさらには教育全般についても扱う。

下城　一（倫理学）【2024年度退職予定】

（演習）現代社会における倫理的問題全般を扱うが、教育との関連を意識してテーマ選定する。
（卒論指導）国家・社会・教育に内在する権力の問題（差別、いじめ、不登校、スクールカースト等）から哲学・倫理学プロパーを課題とすることまで、各人の関心に合わせて選定する。

白取　道博（教育学）【2023年度退職予定】

（演習）〈日本〉〈教育〉〈史〉のいずれかに関わる社会事象の追究。
（卒論指導）教育学または歴史学の諸領域に関わる研究課題を設定することを希望。

鈴木　允（社会科教育・人文地理）

（演習）今日の地域社会が抱える問題を検討するとともに、それを踏まえた社会科授業のあり方についても検討する。
（卒論指導）人文地理学、または地理教育に関わる諸課題について扱う。

棚橋　信明（西洋史）

（演習）近年の西洋近現代史研究の動向と研究手法について学ぶ。
（卒論指導）近代以降のヨーロッパと北アメリカ地域について個別のテーマを取り上げる。

多和田雅保（日本史）

（演習）日本前近代史、特に近世史に関する基本的知識と研究法を習得する。
（卒論指導）日本前近代史、特に近世史に関する歴史資料の読解に基づいた研究。テーマは政治、経済、社会、文化などなんでもよい。教員と相談しながら定める。